別紙

「KAWASAKI NATURE LOOP グローバルプラットフォーム」について

1　背景

▶全国都市緑化かわさきフェア（令和６年度）

・秋と春の２期にわたり、全国都市緑化かわさきフェアを開催し、協働・共創により、かわさきの多様な魅力とみどりを掛け合わせ、みどりが持つ多様な機能や効果を通じて多くのつながりを生むことができました。

協働による花壇づくり

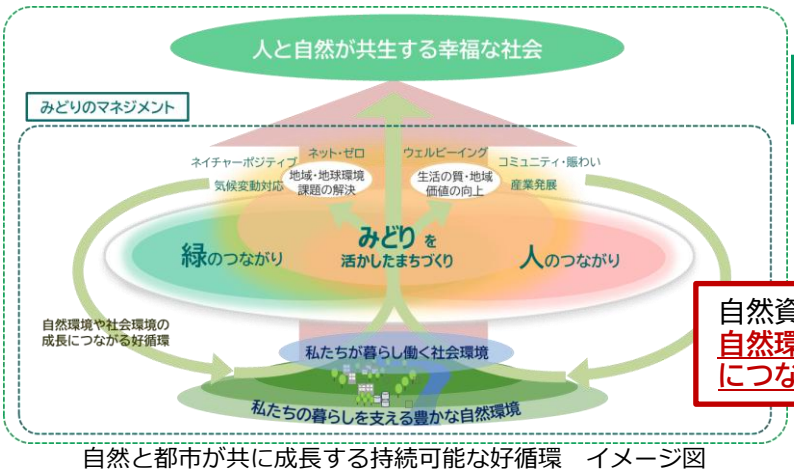
共創によるフェス開催

▶レガシーとしてめざす「みどりの将来像」策定（令和８年３月）

・ 世界的な潮流を意識しながら、フェアを契機に次の 100 年のめざすべき方向性を示す将来像を策定しました。

・みどりの将来像は、関連する個別計画の上位概念として 2050 年のあるべき姿を示すもので、多様な主体が自ら「緑のつながり」「人のつながり」「みどりを活かしたまちづくり」の３つの柱を成長させ、みどりの価値を最大限に引き出し、好循環により自然と都市が共に成長し続ける川崎をめざします。

・「みどりの将来像」に示す３つの柱の成長と好循環を持続させるためには、市民・企業・団体・大学・金融機関など、市に関わる多様な主体が自主的に参画し、主体的に取り組むことが必要であり、市全域において総合的に取組を推進し、発展させていくための仕組み（みどりのマネジメント）づくりを進めるとともに、様々な機会を捉えた情報発信や普及啓発に向けて、緑のつながりにおいては、多様な主体の連携により、現況調査やモニタリングにより緑の量や動植物調査による基礎データを収集し、データの見える化を行うなど、将来像の実現に向けた取組を推進していくこととしています。



【みどりの将来像　コンセプトワード】

“KAWASAKI　NATURE　LOOP”

～みどりで、つなげる。みんなが、つながる。～

自然資本の消費だけでなく
自然環境や社会環境の成長につながる好循環を創出

自然と都市が共に成長する持続可能な好循環　イメージ図

「川崎市みどりの将来像」（令和８年３月策定。URL：https://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000181078.html）

2　設置目的・進め方

▶設置目的

ESG 投資が世界的に進む中で、企業においても、自然関連の情報開示を行う動きが進んでいる状況を踏まえ、市内に立地する世界的な企業との協働により、みどりと生物多様性の評価に関する議論を中心に行う新たな枠組みとして「KAWASAKI NATURE LOOP グローバルプラットフォーム」を設置し、世界からも評価される好循環を生み出す取組をけん引するため、次の議論を開始します。

①みどりと生物多様性の見える化
②モニタリング手法の実践
③指標の検討
④その他、緑のつながりやまとまりに関する意見交換

▶進め方

行政だけでなく、川崎市というコミュニティに属する多様な主体と一体となって、自然とともに歩み、ネイチャーポジティブ（自然再興）に貢献するため、次のように取組を推進していく。

①まず、自然と都市が共に成長する持続可能な好循環の創出に向けたキックオフとして、市内に立地する世界的な企業を中心とした企業の皆様と今後の取組をけん引するため、新たな枠組みでの議論を開始します。

②ネイチャーポジティブの推進に向けて、世界的にも評価を受けられるよう、企業との協働により、みどりや生物多様性の見える化やモニタリングなどの取組を進めます。

③この議論を、市民･企業･団体･大学･金融機関など、多様な主体が自ら参画する総合的な取組の発展や市内への意識の醸成、機会を捉えた国内外への発信につなげていきます。

▶市が果たすべき役割

・脱炭素だけでなく生物多様性も重視されるグローバルな動きを、ローカルな視点で川崎市に根付かせていくためには、市の役割がこれまで以上に重要となります。

・川崎市は、規制と緩和による主導的な緑化の誘導や、つながりのきっかけづくり、地域特性を踏まえたみどりの質の創出などに取り組む必要があります。

▶期待される企業の役割

・企業では、TNFD（自然関連財務情報開示タスクフォース）やESG 投資等の世界的な潮流を踏まえた自然関連の情報開示を行う動きが進んできています。

・今後、これまでの緑化や保全活動などに加え、生物多様性に配慮した緑化や地域還元、様々な技術を活かしたみどりの機能・効果の発揮等に取り組み、世界的にも評価される好循環を生み出すことが期待されます。

地球環境に関する世界的な動向

気候変動	自然資本全体
TCFD（C=climate）	**TNFD（N=nature）**
CO2→温暖化（ネット･ゼロ）	**生物多様性、土地・水・大気など**
グローバルな課題	**ローカルな課題**

※自然環境や生物多様性については**地域の特性と大きな関わり**がある

3　構成（敬称略）

■学識者

・森 章（東京大学 先端科学技術研究センター教授）　・内田 圭（東京都市大学 環境学部准教授）

■企業（50 音順）※カッコ内は所在地

【大規模企業】

旭化成株式会社（東京都）、味の素株式会社（東京都）、ENEOS 株式会社（東京都）、花王株式会社（東京都）、キヤノン株式会社（東京都）、JFE スチール株式会社（東京都）、株式会社 JERA（東京都）、東京ガス株式会社（東京都）、東京電力パワーグリッド株式会社（東京都）、株式会社東芝（川崎市）、日本ゼオン株式会社（東京都）、日本電気株式会社（東京都）、富士通株式会社（川崎市）、株式会社レゾナック（東京都）

【不動産企業】

東急不動産株式会社（東京都）、日鉄興和不動産株式会社（東京都）、三井不動産株式会社（東京都）

【金融】

川崎信用金庫（川崎市）、横浜銀行（横浜市）

■オブザーバー（経済、金融）

・一般社団法人いきもの共生事業推進協議会（東京都）

■アドバイザー

・原口 真（MS&AD ｲﾝｼｭｱﾗﾝｽｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾙﾃﾞｨﾝｸﾞｽ株式会社 ﾌｪﾛｰ）

・堀江 隆一（CSR ﾃﾞｻﾞｲﾝ環境投資顧問株式会社　代表取締役社長）

4　議論の方向性

①みどりと生物多様性の見える化

緑化の取組や緑地での活動などの効果を、最新の衛星リモートセンシング技術や地理空間情報解析技術を活用し、本市の特徴的なランドスケープにあわせて数値化・図示化等により見える化した「川崎モデル」の構築をめざします。また、現地調査の結果を専門的な知見から反映し、市内企業の生物多様性に資する取組が世界的な評価にも活用できるよう、 その精度を高めていき、都市の魅力向上や地域価値の向上、ネイチャーポジティブ（自然再興）に向けた企業の持続的な活動を支援に役立てていきます。

②モニタリング手法の実践

市内で動植物の生息・生育モニタリングを継続して行うことで、緑の量や動植物調査などによる基礎データを収集するとともに、地域や企業と連携した取組を通じて国内外に向けて継続してアピールすることができるよう、多様な主体との協働調査など、都市部のモデルとなり得る持続的なモニタリング手法を導き出します。

企業との連携
（JERA 川崎火力発電所とちどり公園）

企業との連携
（東芝小向事業所と御幸公園）

地域との連携
（夢見ヶ崎動物公園）

＜見える化のさらなる挑戦＞

指標の検討に向けて、「川崎モデル」のさらなる活用により、生物多様性に資する緑化を優先させるエリアの抽出や、ウェルビーイング（心身の充実）やレジリエンス（災害等に対する強靭性の向上）等の見える化の検討による試行実施を行うなど、都市と自然が共に成長する好循環を生み出すモデルの確立にチャレンジしていきます。

③指標の検討

2050 年のみどりの将来像を見据え、2030 年の SDGs や 2050 年のネット・ゼロ（炭素中立）といった国際目標の中間年である 2040 年を目標年次として、生物多様性に関する国際的な指標などの動向を踏まえながら、みどりと生物多様性の見える化や緑化誘導手法等について意見交換を行い、生物多様性に資するみどりのつながりやまとまりなど、みどりの将来像の実現に向けた取組の進捗状況を総合的に検証するときの１つの指標として、本市にふさわしいものとなるよう検討を進めます。

＜みどりの将来像に示す、今後、指標を設定する際の視点＞

- 緑のつながりを示す指標
- 緑のまとまりを示す指標
- 拠点地域におけるウェルビーイング（心身の充実）を示す指標
- みんなで取り組んでいることを示す指標